

かお・人・interview

2025年7月30日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
遠賀川河川事務所 所長

今井勝一氏

IMAI Katsuichi

九州で最も流域人口が多い遠賀川は、22市町村を流れる地域の大動脈だ。炭鉱による水質悪化から、周辺住民の努力により、コウノトリが飛来するまでに環境が回復。遠賀川の歩みと発展は、他のかわまちづくりのヒントとなりつつある。その歩みを次世代へつなぐため、遠賀川河川事務所は流域治水とかわまちづくりの両輪で地域住民との連携を強め活性化を進める。さらなる飛躍を目指し挑戦を続ける、今井所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

遠賀川流域は九州一の人口密度を誇り、かつての石炭産業の隆盛期から、地域の暮らしと密接に結びついてきました。住民の皆様のご尽力により、かつて石炭で汚染された川から美しい水辺へと生まれ変わり、特に直方の河川敷は地域のシンボルとして親しまれています。



▲直方の水辺

一方、近年では遠賀川では平成30年の観測史上最大洪水をはじめ、大規模な出水が頻発しています。これまでの治水対策が功を奏し、内水被害は見られるものの、大規模な氾濫は防いでいます。しかし気候変動の影響で、降雨の激甚化が進み、雨量1.1倍で河川流量が1.2倍に増加すると予測されています。

このような状況を受け、気候変動への対応は待ったなしの課題です。従来の治水対策に加え、流域全体で水害を防ぐ「流域治水」と、川を活かした魅力あるまちづくりを両輪として取り組みます。福岡県、流域22市町村、企業、住民の皆様との連携を深め、安全で豊かな遠賀川の未来を築いてまいります。

Q九州や福岡県とのかかわり

これまで、福岡県の河川行政において、さまざまな災害対応や事業に携わってきました。平成24年の九州北部豪雨では、矢部川水系沖端川で発生した堤防



決壊を受け、福岡県庁の皆さまと連携して河川激甚災害対策特別緊急事業の申請のため、毎週のように国土交通省の本省へ赴き、現地の状況や事業の必要性について説明を重ねました。平成30年には、遠賀川で観測史上最大規模の洪水が発生しました。当時、遠賀川河川事務所調査課長として、福岡県や関係自治体、特に飯塚市の方々と協力しながら、復旧・対応に全力を尽くしました。また、本省勤務時には、九州地区河川事業の担当として、令和5年に筑後川支川巨瀬川(久留米市)における水害対応にも取り組みました。

これらの経験を通じ、地域住民の安心・安全のために、県や市町村の皆様と力を合わせてきたことが記憶に残っています。今後も、福岡県の河川管理・災害対応に取り組んでまいります。

Q事務所の紹介

遠賀川河川事務所は、約100名の職員で構成され、



動力をモーターからエンジンへ切り換えてエンジン始動

▲河口堰訓練

遠賀川の総合的な管理・運営を担っています。主な業務内容としては、治水対策の実施による水害対策、河川管理施設の維持管理、環境保全活動の推進などが挙げられます。また、大雨時には河川の

水位情報などを関係機関へ迅速に提供し、地域の防災・減災に貢献しています。

また、若手職員の成長を重視し、「OnRY (Onga River Younger)」という独自のプログラムを展開しています。現場見学会や他事務所との交流会を通じて、幅広い視点や経験値を上げ、課の垣根を越えた横の

つながりを構築。これにより、同年代の同僚が近くにできる環境を整えています。従来は先輩職員が知識や技術を継承する形でプログラムなどを作成していましたが、今後は若手職員自らが課題を見出し、自主的に挑戦し、解決していく人材育成を目指します。加えて、キャリア形成や働きがい向上につながるよう、各種研修やメンター制度も充実させています。

職員一人ひとりが自発的に学びあえるコミュニケーションの活性化、次世代を支える頼もしい人材の育成が大事です。今後も地域社会に根差した将来を見据え、遠賀川の安全・安心のために役割を果たしてまいります。

Q今年度の事業概要について

平成30年の出水対策として、支川庄司川における排水機場の増設工事は昨年度に完了しました。今年度からは、さらに上流に位置する鯉田堰の改築工事に着手しています。また、支川彦山川では、引堤工事に伴い架け替えが必要となった番田橋について、今年度中に旧橋(車道橋)の撤去工事を実施する予定です。なお、河川の改修だけでなく、地域住民の皆さまに川をより活用していただくため、「かわまちづくり」も流域全体で展開してまいります。



▲庄司川沿川浸水状況(平成30年7月出水)



▲鯉田堰

Q地域との連携・協働について

遠賀川河川事務所では、全国的にも珍しい取り組み



▲番田橋

遠賀川流域は人口密度や施設の多さから全国と同じ課題を抱えています。効率的な維持管理のモデルとなり、トップランナーとして課題解決に取り組みたいと思っています。

として、出張所単位で地域住民との交流会を月1回程度開催しており、この取り組みは20～30年もの長きにわたって継続されています。こうした交流会は、住民の



▲地元 FM ラジオ出演

声や地域のニーズを直接伺える非常に貴重な機会です。防災や環境美化、観察会など様々な地域連携活動の推進につながっています。その積み重ねにより、行政と地域が一体となった河川管理が実現しています。

また、地元FMラジオへの出演にも積極的に取り組み、若手職員にもチャレンジの機会を与えています。ラジオを活用することで、職員自らがテーマを整理し、分かりやすく相手に伝える力を養うことができます。たとえば思うようにできない時があっても、それを次に活かして、成長につなげられます。番組では治水や防災の話題を2回に分けて取り上げ、リスナーから好評をいただいています。今後については、職員の意見も取り入



▲九州『川』のワークショップ in 遠賀川 実行委員会



▲遠賀川一斉清掃

れつつ、継続的な出演も検討しています。ラジオやSNSなど多様なメディアを通じて情報を広く発信し、幅広い世代に河川への関心や理解を深めていただける

よう、地域と連携・協働を強化してまいります。

今年11月には、「九州『川』のワークショップ」が遠賀川で開催される予定です。この場を通じて、遠賀川流域での先進的な取り組み事例や、住民参加型の活動のノウハウを九州全域へ発信し、広域的な協力や知見の共有促進を目指します。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

遠賀川流域の建設業の皆さまは、地域を熟知し、日頃から治水対策や河川管理施設の維持管理にご尽力いただいているとともに、災害時には24時間体制で地域の守り手として迅速な対応に努めてくださる、私たちにとって不可欠なパートナーです。地域の安全・安心を支える建設業の皆さまは、まさに地域の宝であり、今後もご意見やニーズを丁寧に把握しながら、建設業界および地域の更なる発展のために尽くしてまいります。



▲災害時の復旧支援

Q 趣味や健康法について

単身赴任の生活は慣れているので、赴任のたび、おいしいものを食べたり、お酒を飲んだりしながら、その土地ならではの暮らしを楽しんできました。これが私なりの健康法なのかもしれません。

趣味は、スポーツ観戦です。もともと体を動かすことは好きだったのですが、最近は仕事の忙しさもあり、もっぱらラグビーやプロレス、そして競馬などを観る機会が多くなりました。こちらに赴任したのを機に、今は買ったばかりの自転車で、遠賀川流域を巡るのを楽しみにしています。以前、遠賀川に勤務していた頃と比べ、風景が随分と様変わりしています。自転車で散策しながら、この地域の新たな魅力を発見していきたいと思っています。

プロフィール



北九州市、51歳。

H11年 4月 国土交通省入省

H24年 4月 九州地方整備局河川部係長

H28年 4月 (国土交通本省) 水管理・国土保全局

治水課流域治水企画係長

H30年 4月 遠賀川河川事務所 調査課長

R 2年 9月 九州地方整備局 企画部 技術検査官

R 3年 7月 九州地方整備局 河川計画課 課長補佐

R 5年 4月 水管理・国土保全局 治水課 課長補佐

R 7年 4月 現職